

平橋

反橋

〔攝津名所圖會九〕高橋。有馬川に架す橋也。善福寺の門前にあり、善

〔嚴島圖會一〕平橋。大宮と客神社の間にあり、社

〔増補下學集天地輪橋〕同

〔倭訓釋中編十二〕そりばし。源氏にみゆ、反橋の義なり、神代口訣に梁橋をよめり。

〔槐記〕享保十七年九月廿二日、參候、日本ニテソリ橋ノコトヲ反橋ト書タリ、反ノ字ニソルト云和訓アル故ナルベシ、論語ニ櫟棟之花偏夸夫反セリトアリ、反ハソル心ナリ、夫故ナルベシ、然ドモ反橋ト書コト漢ノ書ニテ御覽ナシ、堀ヘ御尋ナリシガ釣橋ト書出タリ、出所シカト不覺ノ由ナリ、越峯ノ八幡へ參リテ、ソリハシヲ見テ、此地ニモ釣橋アリト申サレシト承ルト申ス、先反ノ字ヲ醫書ニ、アノ様ナ形チニ用タルコト有ヤト仰ナリ、堀モ醫書ニ角弓反張ト申ス時ハソル心ニテ侍ル、釣モ天釣内釣トテ、ソルコトニ遣ヒタリト申上、反ノソルハコチノ方ヘソルコトナリ、釣モシリアゲテソル心ナリ、天ノ字内ノ字ノソリヤウ違ナリ、反張モ角弓ノ反ニテ、張字ガ付テ聞ユルナリ、釣ノ一字ニテソルトハ云ガタカルベキカ、又アチノ字ニ虹橋ト云字アリ、サレドモコレハ脚ノナキ橋ノコトナリト仰ラル、日本ノハ子バシノ類ナリ、扱總ジテ唐繪ヲ御覽アルニ、日本ノ如クノソリ橋ト云物ヲ御覽ナシ、ソリタル橋ハ必ハネバシナリ、大方ハ脚ナキ橋ナリト仰ラル、

〔空穂物語 藤原の君〕いけひろし、うへ木有、そりはしつりどのがり、

〔新撰六帖三〕はし

池水のすさきにわたすそりばしもかたぶくまでに古にける哉

〔枕草子五〕なまめかしきもの

清涼殿のそりばしに、もとゆひのむらごいとけざやかにていでゐたるも、さまぐにつけてお